

豊田市

豊田市は、日本の本州の中央に位置する愛知県の県庁所在地である名古屋から電車で東に約 1 時間のところにある。人口 42 万人以上、面積約 918 平方キロメートルの豊田市は、世界でも有数の大都市圏である中京圏に属している。

この都市は、名前を共有する日本の世界的な自動車会社の本社所在地として最もよく知られている。しかし、その歴史は、自動車の出現よりもずっと前にさかのぼる。鎌倉時代（1185 年～1333 年）には、現在の豊田市周辺にいくつかの城が築かれていた。挙母城は、現在の豊田市美術館がある丘の上に、1785 年に建てられたもので、七州城とも呼ばれている。

また、松平家の誕生の地として知られる松平郷は、1970 年から豊田市の一部となっている。将軍・徳川家康（1543-1616）は松平竹千代として生まれ、のちに日本を 1603 年から 1867 年まで支配した徳川幕府を開いた。松平郷には、高月院、松平城址、家康と家康の祖である松平親氏（1394 年没）を祀っている松平東照宮など、松平家ゆかりの史跡がある。

1950 年代末まで、豊田は挙母と呼ばれていた。20 世紀初頭、挙母とその周辺は豊かな森林と絹織物の生産地として知られていたが、1930 年代には世界恐慌の影響で絹織物の世界的な需要が減少していた。挙母の工業を復活させようとした町長の中村寿一（1892-1956）の懸命な誘致活動もあり、豊田喜一郎（1894-1952）は、トヨタ自動車の最初の製造工場を挙母に置き、大規模な工場と社宅、社員の子供たちのための学校などを建設した。挙母工場（現在のトヨタ本社工場）は 1938 年に開設され、この街は日本の自動車産業の中心地となった。

1959 年には、現代の工業都市として歩んでいく決意を明確にし、最大の企業であるトヨタの貢献も称えるために市名変更の運動が行われ、「挙母市」は「豊田市」となった。20 世紀後半、日本の自動車産業が世界的な成功を収めたことで、この街は活気づいた。現在、豊田市にはトヨタの 6 つの製造工場があり、本社や企業博物館などもある。

景気の良さは文化の発展にもつながり、豊田市には著名な建築家が設計した観光名所がいくつもある。豊田市美術館は谷口吉生（1937 年生まれ）の設計で 1995 年に建てられ、東京の中銀カプセルタワーの設計者である黒川紀章（1934-2007 年）は、豊田大橋（1999 年開通）と豊田スタジアム（2001 年開業）を設計した。約 45,000 人収容のこのスタジアムは、サッカーチーム「名古屋グランパス」とラグビーユニオンチーム「トヨタヴェルブリッツ」の本拠地となっている。このスタジアムでは、2019 年のラグビーワールドカップで試合が行われました。

1989 年、豊田市は第 1 回「豊田おいでんまつり」を開催した。この市全体の祭りでは、人々が通り

に踊り、この地方で最大の花火大会でクライマックスを迎える。工業都市としての歴史にもかかわらず、豊田市は緑に恵まれており、市域の約 70%が森林で占められている。豊田周辺には、猿投山や王滝溪谷など、人気のハイキングスポットがいくつかある。